

運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 開催を予定していた日時・場所

日時	令和 4年 5月13日13時30分 ~ 14時	場所	医師会館理事長室
----	-------------------------	----	----------

3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	中川連合町内会 会長
井澤 一成	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司 (欠)	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
斉木 和夫 (欠)	当該サービスに知見を有する者	斉木クリニック 院長
小林 雅子	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
松信 哲朗 (欠)	当該サービスに知見を有する者	仲町台駅前まつのぶクリニック 院長
澤野 直美	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
深澤 立	法人代表	
吉井 涼子	管理者	
宮島 佳代	看護主任	
石濱 千秋	計画作成者	
箕輪 善果	看護リーダー	
青柳 かおる	副管理者	
朝比奈 ゆかり	介護リーダー	
後藤 瑞佳	事務	
上條 由佳	事務	

4. 活動状況報告

別紙(様式2~4)のとおり

5. 活動状況に関する評価・意見・要望

1. インシデント2件について

- ・物品の名札はテープ又はテブラ、白地?⇒テブラで作成し、利用者毎に色分けをしているが、ジョイントは小さく名札も小さい
- ・気管切開の利用者には人工鼻を使っているのか?⇒トラキマスク 咳き込みが強く痰が飛ぶので人工鼻窒息の可能性がある為

2. 虐待報告検討委員会の報告について

- ・どここの包括エリアになりますか、情報を共有しておきたいと思う。

3. 事例紹介について

- ・認知症になると最後は食べられなくなるのか?
⇒機能が落ちて誤嚥性肺炎や、食べたいとは思わなくなる、寝たきりになり、衰弱し、最期の状態になる。
この方は、私の患者さんで、よく見てもらっていると感謝している。家族に寄り添い傾聴しているのがよく分かった。
- ・資料が、会話形式になっているので第三者からでも場面の想像ができ、分かり易かった。
- ・医師は、一方的に家族に状況を伝えてしまうけど、上手に家族の気持ちを引き出している。時間がかかるが、是非、これからも続けてもらいたい。

6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

上記、5. 活動状況に関する評価・意見・要望 と一緒に記載

7. 地域からの情報提供

行政から: 人生会議のPR動画を横浜市で作った。竹中直人が出演している動画。アドバンスケアプランニングとは、が分かりやすいので機会があったら利用いただけたら。

8. その他特記事項

特になし

※ 会議は原則事業所内で行ってください。
やむを得ず他の場所で開催する場合、必要に応じて事業所内の見学を行ってください。

活動状況報告書(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況

登録者数(4月 30日現在)	女性 9名	男性 7名	計 16名					
要介護度	要支援1 名	要支援2 名	要介護1 0名	要介護2 1名	要介護3 2名	要介護4 2名	要介護5 11名	申請・区変中 0名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者 (匿名)	通い	泊まり	訪問	備考(入所日、退所日など)
ア	21	1	14	1 (訪問看護)
イ	7	0	5	6
ウ	12	1	25	7
エ	8	0	42	3
オ	18	0	31	17 開始:4/2~
カ	10	6	4	6
キ	9	0	24	6
ク	30	26	7	5
ケ	9	2	10	23
コ	21	18	36	80
サ	26	22	8	9
シ	21	16	17	64
ス	7	1	12	16 入院:3/28~4/11
セ	19	16	36	13
ソ	10	6	18	16
タ	10	2	31	0
チ				
ツ				
テ				
ト				
ナ				
ニ				
ヌ				
ネ				
ノ				
ハ				
ヒ				
フ				
ヘ				
平均	14.88	7.31	20.00	平均要介護度 4.43

4. 運営方針

事業所の目標	1. 育成計画を改善し、より良い計画にブラッシュアップする 2. 具体的な行動ができるように災害時のマニュアルを見直す 3. 職員のACPの理解を深め、実践できる 4. 他部門との一体化を強化と新規雇用で職員を確保し、登録者数を増やす
目標に向けた具体的取組	1-1) 職員にヒアリングをし育成計画の課題を明確にして、計画に反映する 2-1) 災害時の具体的な行動を考え、マニュアルを見直し、作成する 3-1) ACPの研修会の開催 4-1) 職員間の伝達、職員の異動、新規雇用を進める

5. 活動報告

【3月】 職員面接 運営推進会議(書面会議) 安全衛生委員会・管理者会 運営会議 虐待報告検討委員会 喀痰吸引等関係者会議 誕生会4日・19日・20日・28日
【4月】 令和4年医療報酬改定勉強会 職員全体研修(職業倫理・理念・個人情報保護・プライバシー等) 安全衛生委員会・管理者会議 運営会議 虐待報告検討委員会 喀痰吸引等関係者会議

6. 事故・ヒヤリハット報告

内容	【内容】 当該利用者の経管栄養ジョイントが見当たらなかった。その後、他の利用者家族から、経管栄養セット用の袋の中に当該利用者のジョイントが入っていると連絡があった。 【対応】 ジョイントを探したが見つからず、事業所の新しいジョイントを使用して注入した。 【原因】 経管栄養セット洗浄後、各利用者の袋にしまう際に、氏名を十分確認していなかった。
改善策	経管栄養セット洗浄後は、物品に付けてある氏名の確認と個数の確認を行う
内容	【内容】 当該日、四肢麻痺・気管切開の利用者、朝から痰が多いと家族から伝えられた。通所中も痰が多くむせ込みも多かった。個室でリクライニング車いす上で昼の注入を施行し、痰が多いのでギャッチアップの角度調整の必要性を聞いたが、いつものようでいいとのことでその場を離れた。10分後に注入の確認のため来室すると、首が傾き、むせ込みで顔が赤紫で、マスクの中が鼻水と唾液でびしょびしょだった。 【対応】 体制を整え、吸引し、呼吸が落ち着いたところでベッドに移乗した。直ぐに気づけなかったことを謝罪した。 【原因】 当該日は、スタッフが少なくこまめに見回ることができなかった。通常は、玄関わきの部屋で人目につきやすい部屋を利用してもらっているが、当該日は、他の重度の利用者と重なったため、奥の部屋になり、むせ込んでいる音も聞こえなかった。また、痰が多いことをリーダーや他のスタッフにも報告・周知ができていなかった。
改善策	スタッフが少ない時や痰が多い時は、アクリル板で痰の飛沫予防をし、デイルームで注入を行う

7. 地域への情報提供

●訪問系サービス提供時の地域での困り事
訪問時の駐車場所の確保について苦慮している。
・大規模マンション・・・自治会によって対応が違う
・住民の理解、許容が難しい
【対策】
・駐車許可書
・駐車場所の確認・・・駐車場、路駐、コインパーキング
・今後、地域住民への理解を促す活動をしなければならないのか...
⇒すべての住人が理解がないわけでないと思うが、個人に直接言うと喧嘩になるから、町内会やマンションの会長に言ったらいい。苦勞を掛けるけど、協力しあっていきたい。

8. その他特記事項

特になし